

ヘリコプター搭載型巡視船(砕氷)「そうや」

JAPAN COAST GUARD Patrol Vessel Large



艦船事業本部 横浜事業所

1. はじめに

本船は、一般警備救難業務に加え、氷海域での各種事案対応や大規模災害対応に従事する海上保安庁の巡視船であり、令和7年12月に竣工した。「そうや」は、海上保安庁が保有する2隻の砕氷型巡視船のうちの1隻で、旧日本鋼管鶴見工場で建造され、47年間活躍した先代「そうや」の使命を受け継ぐものである。以下に、本船の主要な特徴を紹介する。

2. 本船の特徴

2.1 一般性能

船型は、冬期オホーツク海の氷海域における単独航行を可能とするため、砕氷能力を最優先に設計している。また、平穏な海面において所定速度を確保し、凌波性・操縦性を両立した船型とした。

2.2 船体部

船首部には、ヘリコプター搭載型巡視船として初めて遠隔放水銃を装備した。

船尾部にはヘリコプター格納庫および離発着甲板を設置し、ヘリコプター運用に必要な専用消火装置、フィンスタビライザーなども装備している。離発着甲板および係船機器周辺には融雪装置を配置した。

また、複数の搭載艇を備え、ミランダ式および中折れ式ポートダビットにより安全かつ効率的な揚降が可能である。

船橋の操舵室には機関管制盤を配置し、機関操縦を可能としたほか、近傍に OIC (Operation Information Center) 区画を配置し、指揮機能を集約した。

2.3 機関部

主機関としてディーゼル機関2基を装備し、それぞれを氷海域対応の可変ピッチプロペラに接続している。限られたスペースの中で、整備性・操作性・交通性を確保するとともに、寒冷地対策にも十分に配慮した。

2.4 電気部

機関区画に3基のディーゼル発電装置を備え、船内各所へ安定した電力供給を行う。

船橋上部には遠隔監視探証装置を設置し、望遠カメラによって広範囲の監視・記録を実現している。

また、船体側面には停船命令等表示装置を設置し、周囲船舶に対して停船命令、防災情報等を電光文字で表示し伝達することが可能である。

3. おわりに

本船は、JMU が長年蓄積してきた砕氷船技術に加え、技術研究所が保有する氷海水槽を活用して氷海域における性能の開発・検証を行うことで、厳しい氷海条件下での高い運航性能を実現している。また、一般海域においても優れた性能を確保し、多方面から高い評価を得ている。

最後に、本船の更なる活躍と航行の安全を祈念するとともに、今後も巡視船建造に邁進していく。

表1 本船主要目
Table 1 Principal particulars

全長	100.0 m
型幅	16.4 m
総トン数	4,000 トン
主機関	ディーゼル機関×2基
推進形式	可変ピッチプロペラ